

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 みらい

日付 平成 21年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験6年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

平成16年に開設して順調に4年間を経過してきたが、昨年秋頃に職員の退職者が出て、少し混乱した。しかし今は安定を取り戻していた。3年、5年という一つの節目に何か変動する事がよくあるが、一つひとつの苦難を乗り越えて、ケアとサービスの質の向上が出来ていく。このホームもこういう道を経験して、良いホームになっていくだろう。

1階のユニットの管理者が交代した。これは同じユニットの管理者が後進に道を譲ったと言える交代で、その人は計画作成担当を引き継いで、介護職員として同じユニットに残っているので安心と思う。どこのホームでも、管理者と計画作成担当者が兼務して、しかも介護職も兼ねてローテーション勤務しているところが多いが、これは中々辛い仕事である。

新しい管理者になったのを機会に、運営理念をより具体化する為に、運営方針として「みらいのケアの方針」を経営者と職員全員で定めた。

(1) 家庭的な環境の下で居心地の良さを創造する。

(2) その人が大切にしている事や関心のある事柄を生活の中に取り入れ、笑顔や輝きのある暮らしを支援する。

(3) 感謝や思い遣りの気持ちに接する事を心掛ける。

この方針はグループホームを運営するのに適格な内容だと思う。これまでもこのホームの利用者に対して、この気持ちで接してきた、一人ひとりの能力を把握して個別ケアをしながら、一人ひとりがこのホームでの生活を満足させてきた支援について、毎年の訪問調査によってよく確認してきた。しかし、近年において、利用者の認知症の症状の重度化が進んでおり、従来のように利用者が経験してきた技能やコミュニケーションによる意思疎通が難しくなってきた人も多くなってきたと思う。1階ユニットと2階ユニットではこの事情も違っているだろうが、今後の状態も予測して、自分の持っている能力やコミュニケーション能力を發揮していくには如何したら良いのか、利用者や職員間での気持ちの交わりを如何したら良いのか、職員間でケアの仕方を研究しておく方が良いかと思う。そして介護計画や記録類は、現状では要領よくまとめて、よく理解出来ているが、今後は職員の日常の業務に直結したものに出来る様に検討していくと良いと思う。

このホームの特長は、地域との交流が深まって来て、訪れたボランティアの人と近所から来ている利用者に顔馴染みがあることである。利用者・家族・職員・地域の人々との交流が日増しに出来ていく事は、これからの地域密着型サービスの理想の姿かもしれない。

特に改善の余地があると思われる点

介護計画や記録類、アセスメントやカンファレンスの仕事の遣り方について、グループホームらしいシステムを考えて、日常の業務に密着したものにしたらどうかと思います。一緒に考えていきましょう。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：“みらいのケアの方針”を今年度始めに代表と全職員が皆で、判り易い方針として定めた。これを基に利用者のケアをしっかりといき、家族や地域へも伝え、みらいの特長を明確にした。</p> <p>2、全体的に見て…：職員が笑顔ではつらつと働いている。利用者が見つめ合ってにっこりと話したり、一人ひとりの気持ちをゆっくりと聞く、相槌を打ったりして共感の気持ちを伝えるような姿勢で接している。利用者に普通の人間として向き合っている職員の姿が確認出来た。利用者は職員の表情を鏡として、自分の気持ちが決まってくる。職員が明るく仲良くしていると利用者にも笑顔が溢れ、笑い声の中で元気に過ごす事が出来る。「ありがとう」の気持ちに接する事が出来た。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：生活空間作りは、ハード面では建物及び敷地内の設備について申し分ない。改善の必要はない。</p> <p>2、全体的に見て…：1階と2階のユニットでは利用者の状態や性格等で雰囲気の違いがあるが、リビングルームには利用者職員が共同で作った色々な作品が飾ってあり、利用者が一人であるいは共同で、得意な人を中心に創作活動をしている様子が想像出来る。又日頃の生活ぶりをよく写真で表現して展示してある。洗濯物を畳んだり、調理の食材の下拵えをしたり、食後の片付けやテーブル拭き等、利用者の出来る範囲で手伝っている。皆で朝と3時のおやつ時に青い山脈のリズムに合わせて体操をする。このように利用者の一人ひとりのペースで生活をして、この広い空間を活用している。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることに配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：ケアマネジメントについて特に改善しなければならない事項はない。感染症の予防と対応マニュアルは作っており、職員にも研修をしているが、実際にマニュアル通りの実践をした事がないので、模範的にでも練習をしておかねばならないと思っている。これは重要な事なので、専門家の支援を受けてでも職員が実際の行動を練習するのは良いと思う。</p> <p>2、全体的に見て…：利用者一人ひとりの人格を尊重する、尊厳を大切にすることでどのような事を実際に行っているかとの質問をしたら、「利用者を屈辱させない。何をしたら興味を持って貰えるか考えている」と管理者が答えてくれた。ホームで生活する時、ぼーっとしているのを四六時中なくすというのではなく、一日の中でその人が一時間でも熱中出来る事を探してあげる、して貰うきっかけを作ってあげている姿勢が見られた。そして安全で健康な生活を送って貰っていた。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：昨秋頃、職員の退職者が両ユニットで出た。職員が笑顔で快く仕事が出来れば、ストレスを少しでも軽減したり、職員同士の仲間意識を高める為、職員相互の親睦を図っていきたくと考えている。又家族への情報提供をもっと活発にする為に、ホームの新聞を発行したいと準備している。定期的に家族の許へ利用者の生活ぶりやホームからの情報が届いたら喜ばれるだろう。</p> <p>2、全体的に見て…：運営推進会議の開催を度重ねていく内に、地域との交流が活発になってきた。会議のメンバーの中に老人クラブ福寿会代表がいて、福寿会で稽古している演芸等の練習発表の場として、このホームでも利用者に見て貰いながら稽古しようという事で、ホームの利用者を楽しませてくれている。そして地域の中で「みらいに行ってみたら」という合言葉にもなっているようだ。ボランティアや園児等、多くの人がホームを訪問してくれている。</p>		